事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係				事務事業No.	110613	
事務事業名	山岳博物館教育普及事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画登載頁	42	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供							
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進							
個別計画	第７期 社会教育計画							37	頁

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	市内小中学生及び大町市を訪れる観光客。	山岳文化の継承及び教育普及事業を推進。

主な業務内容

令和元年度は、企画展「北アルプスの山小屋」を開催し、関連事業として「上高地徳本峠小屋」など歴史的な山小屋の現地見学会や「建築からみた山小屋」の講演会などを実施。また主だった博物館主催の教育普及事業として、「チベット・シュエラプカンリ初登頂と高所順応」。また冬期間の入館者増のため「常設展スペシャルガイド」など開催。

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
	総事業費（決算額）		4,196,348 円	3,949,522 円	3,409,083 円
	財源内訳	特定財源	1,661,450 円	3,000,000 円	円
		一般財源	2,534,898 円	949,522 円	3,409,083 円

活動指標		指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
	①	企画展・特別展	回	2	1	1	2	50.0%	3
	②	学習会・観察会	回	53	60	57	50	114.0%	65
	③	学校との連携・融合	回	53	35	37	50	74.0%	50

成果指標

1．数値で表せる指標

	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
①	企画展・特別展見学者	人	13,052	9,376	7,990	11,000	72.6%	12,000
②	学習会・観察会参加者	人	1,049	1,509	1,430	1,000	143.0%	1,500
③	学校との連携・融合	人	1,731	1,516	1,469	1,100	133.5%	1,600

2．数値で表せない効果

（指標①）

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である		継続	17
	点数	3	3	3	3	2	3			18

評価理由

山岳博物館の展示の柱となる常設展示については、来館者からの感想を常時記入いただいており、その展示内容については高い評価を得ている。企画展の開催については年間３本の展示を基本として長期的な予定を計画しているが、昨年、一昨年については、寄贈資料の整理作業に重点を置いたことから、一時的に実施回数が減少をした。企画展は市民の方々をはじめリピーターとして再度博物館に足を向けていただくためにはかかせず、新たな情報発信の場として、今後とも力を入れて取り組んでいきたい。学校との連携については、北安曇地域の小中学校からも講師の依頼が定期的に来るようになり、着実に博物館を利用していただけるようになってきた。市内在住の小学生には、最低でも授業で２回は博物館を利用していただくよう、各小学校と今後とも連携を図っていきたい。今後事業の効率性を高めるため、より多くの方々に事業を知っていただくため、広報にもさらに工夫をこらしていく。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

企画展を定期的に魅力的な、集客力のあるものにしていくためには、十分な調査・研究の時間が必要であるが、現状は日々の担当業務に忙殺されて、余裕がなく、結果として、最新の情報という意味では新鮮味にかける部分がある。最新の研究成果を取り入れるため、大学や研究機関との連携を更に深め実施していきたい。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

近年は、整理作業など業務の圧迫のため企画展を減らして対応したが、本来は定期的な企画展を計画的に発信していくことが、利用者にとっては楽しみも増え、リピーターの増にもつながることから、博物館の中核的事業として企画展を据え、内容についても充実を図っていきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係	事務事業No.	110614				
事務事業名	山岳博物館調査研究事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち	前期計画登載頁	46	頁				
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目	山岳文化の振興と活用							
個別計画	第７期　社会教育計画	37	頁						

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	市民並びに博物館を訪れる観覧者。	大学や研究機関との連携を推進し、北アルプス及び山麓地域のにおける自然や文化における自然や文化に関する調査、研究活動の進化を図る。 社会教育施設としてのレファレンスサービスを充実させる。

主な業務内容

令和元年度の主な調査研究事業
・「高山植物の生活史に関する研究」　・「大北地域の植物分布調査」　・「ニホンライチョウの飼育、増殖技術確立を目指した研究」　・「博物学に関する現地調査　」・「爺ヶ岳(タネマキジイサン)雪形伝承に関する資料調査」　・「北アルプスの山小屋」に関する現地調査・聞き取り調査など。

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
	総事業費（決算額）	1,208,477 円	248,686 円	246,067 円
	財源内訳 特定財源	円	円	円
	財源内訳 一般財源	1,208,477 円	248,686 円	246,067 円

活動指標	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R１） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
①	自然科学分野調査研究	件	4	6	3	4	75.0%	5
②	人文科学分野調査研究	件	5	4	3	6	50.0%	4
③	外部との共同研究	件	2	3	3	3	100.0%	3

成果指標

1．数値で表せる指標

	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R１） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
①	調査後の成果の公開度	件	2	3	4	6	66.7%	6
②	（企画展・紀要などへの公開度）							
③								

2．数値で表せない効果

（指標①）※調査研究においては、単年度で調査から成果の公表（企画展や論文などへの公表）が行えるものではなく、何年にも亘り調査を継続し、成果が出るものもあり、ここでは調査を実施した実数を示した。

【事業の評価】

評価 項目	必要性 事業の必要性	必要性 市民ニーズ	有効性 上位施策への貢献度	有効性 他事業との重複	効率性 事業の効率性	効率性 実施主体の適正化	今後の方向性 方向性	評価点合計
評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である	継続	15 ― 18
点数	3	2	2	3	2	3		

評価理由

調査成果については随時、博物館広報誌「山と博物館」や「研究紀要」、企画展や常設展「さんぱく研究最前線ー北アルプスの自然と人　トピックス」などで展示し、その成果を公表している。展示にあたっては、こうした成果をご覧になった方が理解しやすかったか、あるいはその成果が期待に応える成果が得られたのか、真摯にその意見に耳を傾け、研鑽を重ねていきたい。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

調査研究事業は、その後の教育普及事業へと展開するための基礎となる重要な事業であるが、現状は日常の業務に時間を割かれ十分なまとまった調査時間を確保できず、各人の休日を利用した調査・研究に負担をかけている。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

今後とも各学芸員、専門員が、独自のテーマに沿って、企画展や研究紀要あるいは広報誌などへ調査成果が効果的に反映できるよう計画を練って進めていきたい。ニホンライチョウの飼育繁殖に伴う調査研究は、今後も飼育・繁殖方法の技術の確立に向け、環境省の方針に従って、長期的かつ重点的に進めていく。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110615	
事務事業名	山岳資料収集保管事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画登載頁	46	頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目	山岳文化の振興と活用							
個別計画	第７期　社会教育計画							37	頁

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	博物館の展示資料、文献など、博物館の機能充実のために、市民や観覧者を対象として、自然科学資料及び人文科学資料の購入や寄贈を受け入れる。	新たに受け入れた資料については、展示に活用するとともに、将来の基礎資料として厳密な保管管理を行う。また受け入れた資料の整理を行い、後世に亘り利活用できるよう適正に保存管理を行う。

主な業務内容

新規資料の購入や寄贈の受け入れ。寄贈資料については、資料の受入のための手続き、整理作業を実施。
また保存管理のため忌避剤などにより害虫の防除を実施。併せて新たな資料の受入の際には、浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤による包み込み燻蒸を実施し、資料の永続的な保管を行っている。

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
	総事業費（決算額）	2,834,147 円	3,497,664 円	2,739,893 円
	財源内訳　特定財源	円	円	764,000 円
	財源内訳　一般財源	2,834,147 円	3,497,664 円	1,975,893 円

活動指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
① 自然科学新規収集		３件	３件	６件	３件	200.0%	３件
② 人文科学新規収集		１５件	８件	７件	８件	87.5%	５件
③							

成果指標

1．数値で表せる指標

指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
①							
②							
③							

2．数値で表せない効果

（指標①）寄贈あるいは購入化石資料などは、博物館の現在の展示資料にを補完する資料として貴重であり、実際にそのいくつかは現在展示し、観覧者の皆さんにご覧いただいている。

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	高い	重複なし	普通	適正である		継続	16
	点数	３	２	３	３	２	３			18

評価理由

博物館はまもなく創立70周年を迎えようとしており、これまでに収集保管してきた資料は膨大な数にのぼる。資料は逐一整理、分類化され、順次展示や閲覧に供している。近年では博物館のホームページ上に資料台帳を公表するだけではなく、世界中で利用可能なミュージアムネットへの加入も行い、博物館及び資料の価値を高める取り組みを行っている。　今後は、所蔵する代表的な資料の画像を駆使した紹介など、博物館の情報公開を一層進めていきたい。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

年度ごとに寄贈資料の受入量には多寡があり、一部に整理作業が手付かずのものがあるが、今後計画的に資料整理を実施し、将来にわたって利活用ができるよう進めていきたい。植物のさく葉標本や地質資料については、登録を終了したものからミュージアムネット（S-:net）に情報を公開し、全世界に資料の保管に関する情報を提供している。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

資料の収集保管業務は、地味であるが、博物館の基礎的な業務であり、将来の資料公開に必要不可欠な作業にあたる。年度ごと計画的な整理作業を継続する必要がある。なお整理が終了した資料から順次、博物館ホームページで公開し、博物館資料の全体像を要望のある方には閲覧できるように進めている。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係	事務事業No.	110616				
事務事業名	動植物飼育栽培繁殖事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	46	頁	
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目	山岳文化の振興と活用							
個別計画	第７期　社会教育計画						37	頁	

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	市民並びに来館者を対象として、貴重な野生動物を保護し飼育・繁殖及び栽培、調査研究を行いつつ、北アルプスから山麓に生息する生物の生体展示。	博物館本館の展示と連携した野生動植物の飼育・栽培及び繁殖・増殖を行い、山岳博物館としての機能の充実を図る。

主な業務内容

付属園の機能・役割として、博物館本館では伝えきれない生体展示としての動物や植物の実物の姿を見ていただき、その生態の不思議と命の大切さを伝える。また飼育栽培している動植物を活用した調査研究及び教育普及活動を実践する。また付属園の目的を達成するため、施設整備に努める。

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
	総事業費（決算額）	9,272,898 円	6,457,837 円	6,550,736 円
	財源内訳 特定財源	156,000 円	156,000 円	126,000 円
	財源内訳 一般財源	9,116,898 円	6,301,837 円	6,424,736 円

活動指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R１）	達成率	次年度（R2）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
① 動植物種類	種	86	79	79	90	87.8%	90
② 新規保護動物収容数	個体						
③ 教育普及開催日	日	9		10			10

成果指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R１）	達成率	次年度（R2）
１．数値で表せる指標							
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
① 保護動物収容数	個体	22	19	32	22	145.5%	36
② 教育普及事業参加者	人	558		2,702			2,500
③							

２．数値で表せない効果

（指標①）成果指標のうち②教育普及事業参加者とは、付属園まつり参加者数を表している。

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	普通	重複なし	低い	適正である		継続	15
	点数	3	3	2	3	1	3			18

評価理由

現在付属園の改修計画が行われている状況から、当面傷病鳥獣などの動物の受け入れは行っておらず、現状の動物の飼育に専念し、教育普及を行っている。付属園での教育普及の柱となるのが、ゴールデンウィーク期間中に開催している付属園まつりであり、例年多くの子どもたちが参加し、動物たちとの触れ合いを行っている。付属園まつりについても毎年内容を変えて、動物の生態や個性、命の大切さを考える場を設け、普及活動を行っている。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

付属園が整備されて以降、抜本的な再整備が行われないまま今日まできた。老朽化施設の取り壊し部分を決定し、どのくらいの経費が必要なのか、また新たな構想で整備を進めた場合にはどのくらいの整備を行い予算規模を決定していく必要がある。また今後の飼育動物や植物、岩石などの展示の具体的な内容についても詰めていく必要がある。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

博物館及び付属園の整備の基本理念に基づき、中長期の実施計画を立案し、具体的な整備計画案について検討段階にある。収容スペースも問題もあり、事前に飼育動物も選定する必要がある。飼育体制の現状から、今後は傷病鳥獣の受け入れは実施しない。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係				事務事業No.	110617	
事務事業名	ライチョウ飼育事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画登載頁	46	頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目	山岳文化の振興と活用							
個別計画	第７期　社会教育計画							37	頁

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	対象は、ニホンライチョウ及びスバールバルライチョウ。	環境省のニホンライチョウ保護増殖事業の一環として、ライチョウの生息域外保全事業に寄与。保護増殖技術の確立。ライチョウについて調査研究及び一般公開による教育普及の推進。

主な業務内容

- ニホンライチョウの繁殖、飼育事業及びスバールバルライチョウの飼育事業の実施。
- ニホンライチョウ及びスバールバルライチョウの生態の調査研究・教育普及の実施。
- ニホンライチョウ及びスバールバルライチョウの一般公開・展示による教育普及。

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
	総事業費（決算額）		6,072,563 円	10,186,368 円	7,974,768 円
	財源内訳	特定財源	円	8,000,000 円	3,016,000 円
		一般財源	6,072,563 円	2,186,368 円	4,958,768 円

活動指標		指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
	①	スバールバルライチョウの飼育数		3	3	2	3	66.7%	2
	②	ニホンライチョウの飼育数		6	6	8	19	42.1%	12
	③								

成果指標	1．数値で表せる指標			平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
		指標名	単位						
	①	ライチョウ見学者数	人		1,700	21,000	20,000	105.0%	23,000
	②	（公開はH31.3.15～）							
	③								

2．数値で表せない効果

（指標①）

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である		継続	17
	点数	3	3	3	3	2	3			18

評価理由

ニホンライチョウの飼育繁殖技術を確立することで、環境省が進める日本ライチョウの保護増殖計画の推進に寄与することとなる。日本中が注目する事業を推進し、教育普及活動を行うことにより、山岳文化都市大町市の魅力度が増し、イメージアップに繋がる。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

ニホンライチョウの飼育繁殖に関わる技術確立に向け、関係する飼育園館、大学機関が相互に情報共有を行い取り組んでいる。博物館ではこれまで人工繁殖に取り組んできたが、今後は自然繁殖の成功に向け取り組んでいきたい。保護増殖技術を確立し、繁殖個体を増やし、ニホンライチョウの増殖事業に貢献できるよう技術の確立に努めていきたい。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

関係団体と連携を図りながら、飼育繁殖事業を軌道に乗せ、個体数の増加を図り、繁殖技術の確立を図っていきたい。教育普及事業では、博物館からの定期的な情報発信を行っていき、博物館への来館者増へつなげる。なお博物館のオリジナリティーある教育普及を実施するため、ＳＮＳなど活用し情報発信を行っていきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係	事務事業No.	1106112				
事務事業名	付属園整備事業								
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第１節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	42	頁	
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供							
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進							
個別計画	第７期　社会教育計画						37	頁	

事務事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
	市民及び来館者を対象。	老朽化している一般動物を対象とした飼育舎などの整備に加え、高山植物や岩石、憩いの空間展示を兼ね備えた付属園整備計画に添って、今後計画的に修繕・整備を行っていく。

主な業務内容

付属園ではこれまでにスバールバルライチョウ舎、ニホンライチョウ舎と一般動物の飼育舎などに先行して整備を進めてきたが、今後一般動物を飼育する施設として環境エンリッチメントに準拠した、生き物の生活・生体を考えた施設整備が求められる。またこれまでの動物を展示し鑑賞する場から、高山の環境を復元し動物が生息する本来の環境を整備し、憩いの空間を創造し、市民や来館者が楽しみながら学べる空間整備を行う。

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		1,398,600	円	1,882,644	円	867,570	円
	財源内訳	特定財源		円		円		円
		一般財源	1,398,600	円	1,882,644	円	867,570	円

活動指標		指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
	①								
	②								
	③								

成果指標	1．数値で表せる指標			平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	前年度（R1） 目標値	達成率（%）	次年度（R2） 目標値
		指標名	単位						
	①								
	②								
	③								

2．数値で表せない効果

（指標①）令和元年においては、付属園の整備構想を作製した。予算規模等により具体的な整備箇所は変動が予想されるが、今後の整備の基本となる構想である。

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である		継続	15
	点数	3	2	2	3	2	3			18

評価理由

令和元年度においては、付属園の整備計画を作成することが主たる事業内容であり、本年度分に予算処置されたものは、老朽化した施設の応急的な修繕工事が主たるものである。昭和57年に本館建設とともに、付属園も整備されたが、その間抜本的な整備が行われてこなかった。市民そして来館者が、北アルプスに棲息する動物にを身近に観察でき、高山の雰囲気を味わえるような空間整備を行い、安らぎながら学べる付属園を整備していきたい。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

老朽化した付属園の整備構想を立て、その方針に沿って施設整備を実施していく。構想にそって今後、解体及び改修箇所の経費を算定し、どのような順序で改修を行うか素案を作製。具体的な飼育動物や高山植物などの配置や調達方法などを検討する。

改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）

付属園整備構想に沿って、具体的な整備計画を作成し、予算規模も併せて検討し、建設整備を進めていきたい。